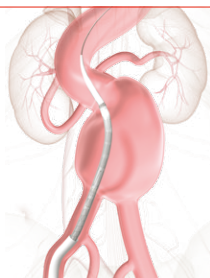


留置ステップ

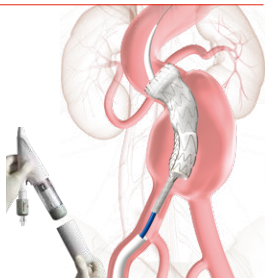
トランクイブシラテラル・レッグ

- 1 トランクイブシラテラル・レッグを目的の位置まで進める。



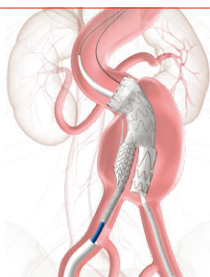
トランクイブシラテラル・レッグの パーシャルディプロイメント

- 2 展開ステップ1: プロキシマルディプロイメントノブを反時計回りに回し、一定のスピードでノブを引く。
結果: トランクイブシラテラル・レッグのコントラテラル・ゲートまでの部分が展開される。中枢のステントのみ完全に展開され、トランクイブシラテラル・レッグは約 70% の径まで展開される。イブシラテラル・レッグはこの時点では展開されていない。



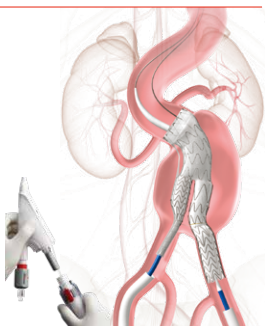
カニューレションと コントラテラル・レッグの展開

- 3 コントラテラル・ゲートにカニューレションし、イントロデューサシースをゲートまで進める。イントロデューサシースを通してコントラテラル・レッグをゲートまで進め、展開する。



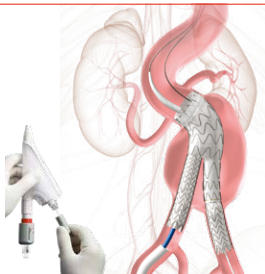
コンストレーニングシステムの抜去と セカンダリスリーブの展開

- 4 操作: 赤いセーフティロックを引きながら、クリアーノブを反時計回りに回し一定のスピードで引き抜く。
結果:
■ コンストレーニングループ、ロックピンおよびセカンダリスリーブ ディプロイメントラインが抜去される。
■ トランク部分が完全に展開される。
■ テンポラリーアタッチメントが解除される。



トランクイブシラテラル・レッグの完全展開

- 5 展開ステップ2:
ディスタルディプロイメントノブを反時計回りに回し、一定のスピードで引き抜く。
結果:
イブシラテラル・レッグが展開される。



ポジショニング最適化のためのオプションステップ

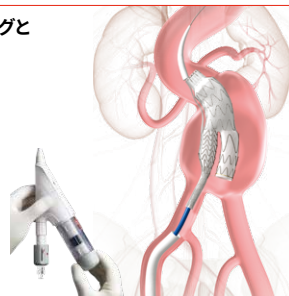
トランクイブシラテラル・レッグを拘束した状態での 展開前のアンギュレーションコントロール

- 1a アンギュレーションノブを時計回りに回し、アンギュレーションワイヤーを前進させる。



ポジショニングの最適化のためのリポジショニングと アンギュレーションコントロール

- 2a リポジショニングのみの場合
コンストレーニングダイヤルを時計回りに回し、トランクイブシラテラル・レッグの中枢側端を再拘束する。デバイスの位置を再調整した後、コンストレーニングダイヤルを反時計回りに回し、中枢側端を再展開する。



アンギュレーションコントロールの使用

コンストレーニングダイヤルを時計回りに回し、トランクイブシラテラル・レッグの中枢側端を再拘束する。アンギュレーションノブを時計回りに回し、アンギュレーションワイヤーを前進させる。

注意: アンギュレーションワイヤーを前進させた状態で、メインボディのカテーテルを回転させないこと。デバイスまたはカテーテルが損傷する可能性がある。

オプションでのアオルタ・エクステンダーのアンギュレーションコントロールと展開

スティッフガイドワイヤーを通してアオルタ・エクステンダーを留置したい位置まで進める。もしアオルタ・エクステンダーにアンギュレーションをかけるが必要がある場合には、アンギュレーションノブを時計回りに回す。

展開を行う際は、プロキシマルディプロイメントノブを反時計回りに回転させ、一定のスピードで引き抜く。



アンギュレーションコントロールを実施していた場合には、レッドインジケーターが見えなくなるまでアンギュレーションノブを時計回りに回し、アンギュレーションワイヤーを完全に後退させてから慎重にデリバリーカテーテルを抜去すること。

注意:

- デバイスが拘束されている状態において、360°を超えてカテーテルを回転させないこと。
- トランクイブシラテラル・レッグのパーシャルディプロイ後は 90°を超えてカテーテルを回転させないこと。
- イントロデューサシースの中を通して、展開前のデバイスを抜去しないこと。
- 2回を超えて、デバイスの拘束 / 再展開を行わないこと。
- 5回を超えて、アンギュレーションワイヤーの前進 / 後退を行わないこと。

添付文書 (電子化された添付文書) の警告及び使用上の注意欄を参照すること

